

導入事例 Case study

日吉いわさ内科・循環器内科様

J-MAC
SYSTEM



一般内科から循環器領域、がんの専門外来まで生活習慣病管理や予防医学を重視し、患者さんに寄り添ったクリニックを目指す。

神奈川県横浜市港北区に開業した「日吉いわさ内科・循環器内科」。国公立の病院および教育施設において、循環器・一般内科・腫瘍学の研鑽を積み、地域の皆さまに幅広い医療を提供できるよう2024年(令和6年)7月に開院。総合内科・一般内科を基本に、循環器領域、がん診療、生活習慣病の管理から予防医学まで、かかりつけ医として患者さんに寄り添ったクリニックを目指しています。

開院にあたり、なぜ「Climis」を導入されたのか、岩佐 健史院長にお話を伺いました。

感染症から生活習慣病まで幅広く診療するクリニックを目指す

-- 先生のご経歴、開院までの経緯についてお聞かせください。

私は大阪出身ですが大学進学を機に18歳で上京し、東京大学医学部医学科に進学しました。卒業後は国立国際医療センター(現・国立国際医療研究センター病院)で臨床研究義務化後の第1期生として、次に関東



岩佐健史 院長

では有名な循環器の病院である榊原記念病院(東京都府中市)にて、当時の循環器内科における最先端の手技・知識の研鑽を積みました。

その後、東京大学医学部附属病院(東京都文京区)に戻り、博士課程の研究をしつつ臨床研鑽も積み、卒業後10年目に国立がん研究センター中央病院(東京都中央区)で総合内科・循環器内科医長として赴任し、がん・腫瘍学を学びつつ新たな学問・領域であるオンコカードiology分野の確立にも携わりました。卒業後20年の経験を経て、患者さん一人ひとりと向き合う医療、総合内科・一般内科を基本に、循環器内科およびがん診療の経験を活かし、感染症から生活習慣病まで幅広く診療するクリニックを目指し、2024年7月に開院しました。

-- 医師を志す中で循環器領域を目指した理由をお聞かせください。

大学在学中から臨床研修を含めて、循環器領域に惹かれて循環器内科を志しました。日本においては死因の第1位ががんになりますが、国際的には心血管に関する病気が死因の第1位の状況です。偏った見方かもしれませんが、がんという病気の治療は標準化されつつあり、どこに

どのくらいの大きさの病変があるのか、転移はどこにあるのか、また最近では遺伝子変異がどのように入っているのかなど、ステージングとがんの種類によって治療法が定まるのに対し、心臓病をはじめとする

循環器疾患はまだ発展途上の状況とも言えます。高血圧1つをとっても最初にどの薬を処方するのかは決まっておらず、主治医の裁量に任される部分があります。心不全のハンドリングについても同様です。

一方、循環器を専門にしていくと、不整脈、虚血性心疾患、心筋梗塞、狭心症といった病気を専門とするような視野が狭くなることも感じていました。国立がん研究センター中央病院での赴任は、循環器疾患に加えて、がん専門医の先生方と幅広い患者さんの診療について見つめ直せるという思いもありました。

最新の医療機器と最新の知識・技術で質の高い医療サービスを

-- クリニックの特徴についてお聞かせください。

1つ目は感染症をはじめ、循環器領域・生活習慣病の管理まで、気軽にかかれる皆様のかかりつけ医としてという思いがありました。専門に特化したクリニックというのは既にかなりの数がありますが、できるだけ幅広い疾患の患者さんを受け入れたいと思っていました。開業にあたっては、コロナを初めとする感染症の患者さんの対応をどうするかという問題もありましたが、感染症の患者さんと高血圧などの患者さんをお互い心配することなく、分け隔てなく診療できるクリニックをということで、感染症用の別入口と隔離診察室も設けています。

もう一つは最新の医療機器と最新の知識・技術で質の高い医療サービスを提供するということです。心エコー、ホルター心電図、血管の検査など、質の高い検査ができるクリニックを目指しています。

大きな病院においては、心エコーやホルター心電図検査において、予約状況、機器の台数、技師の数等の問題で1ヶ月待たされるケースもありますし、外来でフィードバックするのも数週間かかることも多々あります。当院では私が全部見ておりますので、

検査した結果をその日のうちに説明できますし、クリニックならではのメリットです。患者さんが当院に来て良かったと思っていただけるクリニックにしたいと思っています。



診察室廊下から受付を望む



X線撮影装置



超音波検査装置

クラウド型は毎月定額のため、経営的な見通しが立ちやすい

--なぜクラウドPACSに決めたのですか？

PACS検討時に知り合いのクリニックを10施設ほど見学しましたが、大手装置メーカーのPACSを導入している施設がほとんどで、実はクラウド型のPACSを導入している施設はありませんでした。



Climisでの画像参照

電子カルテについても

オンプレミス型、クラウド型のどちらが良いかという問題がありますが、オンプレミス型にすると増設ができないという問題があります。開業時は診察室2室でしたが、後に感染症外来用に1室増やすという柔軟な構成が難しいと聞いています。

加えてコスト的な問題もあります。クラウド型だと初期費用以外は毎月定額のため、経営的な見通しが立ちやすいということがあります。オンプレミス型だと、増設や更新時にある程度の費用が必要なため、経営面への影響があります。Climisの場合は保守費用も込みで毎月定額というのは非常に魅力的です。また副次的なこととして、オンプレミス型だとモニターの費用も導入時に含まれていますので、構成変更や入れ替えの柔軟性に乏しいこともあります。Climisの場合、画像表示モニターはクリニック側で用意するため、機種や台数など、構成を自由に決められるというメリットもあります。

-- 情報収集はどのようにされましたか？

オンプレ型/クラウド型の両方で情報収集をしましたが、Climisについては装置メーカーから初めに紹介がありました。他にインターネットのPACS比較サイト等で情報を収集し、幾つか他社のクラウド型の製品についても検討しました。デモも行っていただきましたが、レントゲンやエコー画像など、表示速度や動作も不安な動きでした。

保管容量の制限、費用の従量制があるかどうか

-- 選定時のポイント、決め手についてお聞かせください。

選定時のポイントとして、一つは保管容量の制限があるかどうか、保管容量に対する費用の従量制があるかどうかです。実際、レントゲンとエコーの動画のみであれば、クリニックレベルであればそれほど問題にならないとは思っていましたが、将来的に保管容量が増え、月額料金が上がるのは避けたいと思っていました。容量無制限で定額制であればその点は安心できます。

もう一つは電子カルテとの連携性です。オーダーを拾えるか、患者属性の連携ができるかという点です。電子カルテから該当の患者さんの画像をスムーズに連携して表示できるかということも重視していました。その他、他院からのCD/DVDの画像データの取り込み、他院へ提供するCD/DVDの作成についてもポイントでした。当院では画像クリニックと連携しており、CTやMRIの画像を取り込むこともありますので、機能としては必要でした。

選定の決め手としては、まずは保管容量の制限がないということです。また汎用ではありますが、レポートシステムが標準で機能として搭載されていることもポイントでした。作成したレポートを紹介状に添付

すると、紹介先の施設での評価も良いです。コメントやキー画像も貼れますし、どのような検査を行ったかという把握はできます。心エコーの検査については、外部での評価が必要な場合は私が全てレポートを書いています。

エコーの動画についても、適正なフレームレートで再生される

-- 導入されて約1年経ちますが、感想をお聞かせください。

当院の場合、エコーの取り込みでは動画が多いため、表示まで多少時間がかかるということはありますが、レントゲンについては全く問題ありません。クラウドということで、どうしても回線の影響を受けるため仕方ないと思いますが、この点が改善されるといいですね。

エコーの動画についても、適正なフレームレートで再生されますので良いと思います。平均的には1回の心エコーの検査で静止画が16枚、動画は3秒ほどで14,5枚を撮りますが、表示スピードも問題ありません。CD等の取り込みも受付で受け取り、患者さんの診察時には取り込みが終わって見られる状況になっていますので、すごく助かっています。他にはレポートの入力で、記号等の使用できない文字がありましたが、現在は改善されています。またボタンやデザインについては、シンプルで見やすいインターフェイスだと思います。

-- 今後、Climisに期待すること(機能等)があればお聞かせください。

レントゲンの心胸郭比について、現在は手動での計測ができますが、AIを使うことでも良いですが自動計測機能があると良いですね。

-- 導入後のアフターフォロー、保守サポートはいかがですか？

あえてデメリットから言うと、装置メーカーとPACSメーカーが別の場合、当然問い合わせ窓口が別になりますので、両方への問い合わせが必要です。しかし、リモートの遠隔操作でほぼトラブルは解決できていますし、大きな問題も感じていません。

また保守については、オンプレ型の場合はハードウェアの型式も固定されているため、修理するための部品調達が大変と聞いていますが、クラウドの場合は型式に関係なく代替PCがあれば良いと思いますし、Climisではあらかじめ代替機を納品されていますので、万が一の場合でも代替機に取り替えて復旧でき、安心感があります。

-- 最後にClimisを薦めるポイントがあればお願いします。

クリニックにおける画像連携やシステムの構築は、途中で入れ替えるとなるとかなり大変と聞きます。オンプレミス型の場合、金銭面においても、連携においても大きな問題になります。

クラウド型のClimisだと更新の必要がなく、端末を増やすといった構成の柔軟性もあります。また私は使用しておりませんが、画像ビューアはWebブラウザを使用するので、Macユーザーの先生にはお薦めできますね。電子カルテ端末を利用したビューアのため、レポートを書くときもATOKの医学辞書を使えることも良いですね。



取材協力:日吉いわさ内科・循環器内科
(2025年7月 取材)